両輪から融合へ。大学発展に力を尽くす

長谷川勉商学部長と山本裕二商学部校友会長が対談

近年、商学部と商学部校友会の連携は一段と深まり、新たな取り組みが生まれている。その現状と今後の展望について、長谷川勉商学部長と山本裕二商学部校友会長が語り合った。

長谷川勉商学部長プロフィール
1989年商学部商業学科卒、94年大学院商学研究科博士後期過程単位取得満期退学。
2012年商学部教授。22年商学部長に就任。
専門は金融機関論。神奈川県出身。

人的支援で深まる学部と商学部校友会との交流

山本：商学部校友会のミッションは、まずは学生支援であり、そこには金銭面と人的支援があります。金銭面においては様々な奨学金を提供していますが、人的支援である就職相談や国家試験の資格取得支援も好評です。インゼミ大会では審査員も校友会で派遣しており、上場会社の役員などで活躍する卒業生を社会人講師として招き、講演なども実施しています。

長谷川：人的支援で学部と商学部校友会の関係は深まったと感じております。その結果、毎年のように新しい取り組みが生まれました。この路線は、ぜひそのまま続けていただきたいと願っております。また、商学部校友会が持っているネットワークと大学の学生が持っているネットワークが繋がるような仕掛けも今後は必要になると考えています。社会人講師という観点でもう少し希望をお話ししますと、学生の全てが成功者になるわけではありません。ハリウッド映画には「英雄の旅」という脚本のセオリーがあります。これは主人公がいくつもの困難な旅をして、最後に英雄が凱旋帰還するというものです。ただ誰もが映画のヒーローのように旅に出るわけではありません。ずっと同じ会社で定年まで勤め上げ、今、年金生活をしている。そんな普通に生きてきた人も、どこかで登場していただきたいです。

もう1つ別の観点ですが、卒業生には社長が多い。しかし、社長という肩書は一見立派でも、様々な悩みを抱えているのが日本の中小企業の現実だと思います。そういった両面性のある社長の方をお招きして、たとえば「社長集まれ」というテーマで座談会などを行い、そこに学生が参加すれば、起業のマインドを伸ばせそうです。

より卒業生に必要とされる商学部校友会へ

山本：一部の大学ではOBやOGとの繋がりを大事にし、ビジネスに活用している事例をよく伺います。ただ日本大学の場合にそういう動きや発想はあまりお聞きしません。この点はどういう風に考えでしょうか。

長谷川：1つの可能性として挙げたいのが、商学部で開講しています「あきない塾」です。その講座に来る方はリタイアされた方、それから現役の方など、いろいろな方がいらっしゃいます。この場を商学部校友会の方にも活用していただくことが、遠回りのようでも卒業生が繋がり、ビジネスに活かせるきっかけをつくることができるのではないかと考えております。

山本：学生の段階から校友会に興味を持っていただくことも大事になります。この点についてはどうお考えでしょうか。

長谷川：卒業生が必要とする何らかのサービスを考えてもいいのではないでしょうか。おそらく最もニーズがあるのが転職だと思います。もう1つは、生活です。今、総務省の調査でも、生活面で誰に相談していいかわからないという人が多いことがわかります。

山本：学部長からの様々なご提案については前向きに検討してまいります。本日、貴重なご意見をいただきましたが、このような商学部と商学部校友会の交流は、大学発展の両輪になると思っております。

長谷川：同意見です。両輪というよりも融合であり、一体化しつつあるような感覚を持っておりますし、さらに活躍の場を広げていただければ有難いと思っております。

山本：本日はありがとうございました。

より良い日本大学商学部を目指して

木﨑事務局長

日本大学商学部事務局長　木﨑 孝之助

校友の皆様には、日頃から格別のご厚情によりご支援・ご協力を賜りまして、心よりお礼申し上げます。令和5年5月より商学部事務局長を拝命し、早2年半が過ぎようとしております。

商学部校友会には、経済的困窮者や海外留学者への奨学事業、各種資格取得に向けた奨励支援等、学生の未来への懸け橋となるサポートのほか、学部祭補助等、本当に多岐に渡るご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、商学部では長谷川勉学部長の熱意あるリーダーシップのもと、学生の教育支援のより一層の充実を図っています。今後も長谷川学部長を全力で支え、常に変化し続けるビジネス環境において、学生たちが、自ら考え、自ら学び、そして自ら道をひらき、自身の能力を最大限に発揮し、社会に貢献できるよう、私も汗をかいて全力でサポートしてまいります。

私事ではございますが、現在、日本大学相撲部監督として学生の指導に当たっておりますが、山本校友会長をはじめ、多くの校友会の皆様に相撲部への熱い激励とご支援をいただき、11月に開催された全国学生相撲選手権大会の団体戦において、3年ぶり32回目の優勝を勝ち取ることができました。学生の日頃の努力の賜物であるとともに、日々応援いただいている校友の皆様も含めた「チーム日大」としての力です。ありがとうございました。

結びとなりますが、学生ファーストの気持ちを第一に、校友の皆様方からの温かいご支援あっての本学であることを忘れず、日々精進してまいりたいと思っております。

日本大学商学部校友会報

発行所
日本大学商学部
校友会事務局
東京都世田谷区砧5-2-1
郵便番号　157-8570
日本大学商学部内
電話・FAX
03（3749）6720
発行責任者　山本　裕二

戦前の貴重な写真が満載
昭和14年
卒業アルバム
校友会Webにて公開！
詳細は3ページ

最新情報は
ホームページで
チェック！
商学部校友会
ホームページ
もっと詳しく！
https://nichidai-bus-kouyukai.com/
▸校友会行事の最新情報
▸ご連絡先の変更フォーム
随時更新中です！
是非ご覧ください。

日本大学の"今"を伝えるメディア
NU CATCH-UP
学びや教育、
大学の取り組みや活動など、
大学の最新情報を発信しています。
https://www.nihon-u.ac.jp/catchup/

日本大学
商学部
https://www.bus.nihon-u.ac.jp

校友会50周年寄付金で個人ブースを設置

学生の就職活動・学習環境を支援

商学部校友会創立50周年記念寄付金をもとに、この夏、商学部は個人ブースを設置した。設置場所は、砧キャンパス1号館のサイバースペースコスモス。オンライン面接等、学生の就職活動や、会計専門職試験の学習スペースとして活用が期待されている。

校友会50周年を記念するプレート

総額900万円を奨学事業を支援

令和7年度の商学部校友会から商学部への寄付贈呈式が11月12日（水）、商学部長室にて実施された。当日は、商学部校友会の山本裕二会長から長谷川勉商学部長に目録が手渡された。

今年度は、商学部奨学事業を支援する商学部奨学資金400万円、商学部学生の職業会計人資格取得に関わる奨励資金300万円、商学部学生の「はばたけ！留学校友会」事業の資金200万円を贈呈した。「はばたけ！留学校友会」事業として、円安の影響による渡航費用高騰に対応し、学生の留学資金支援を令和6年度より行っている。

左より吉原令子学部次長、山本裕二校友会長、長谷川勉学部長、木﨑孝之助学部事務局長

経済的に苦しい学生を支え続ける校友会

目録を受け取った長谷川学部長は謝意を述べるとともに、留学支援の資金について「やはり円安の影響で留学を希望する学生が減っている。費用の負担軽減で留学を後押ししたい」と語った。また、学生の経済状況に対しては「全体としては苦しい状況の学生が増えている。節約のために昼食を少し我慢しようかという学生の声も聞く。この奨学資金をそのような経済的に困窮している学生に役立てたい。それだけでなく、学部として全般的に支援できる方法を今後も考えていく」と話した。

山本会長は、「はばたけ！留学校友会」奨励金給付者との懇談会で、学生から「補助してもらって本当に助かった」との声を聞いたことに触れ、学生の力になれていることを実感し、嬉しく思うと語った。そして、「商学部校友会の創立以来、商学部奨学資金はほぼ毎年寄付されてきた。私たちもこのバトンを受け継ぎ、経済的に困難を抱える学生のために今後も支援を続けていきたい」と述べた。

学生の「学びたい」気持ちを応援

奨学金寄付　資格取得支援　海外留学支援

商学部校友会では、毎年学生を支援するための寄付を実施。
今年度も奨学事業・職業会計人資格取得奨励・海外留学支援のための資金が贈呈され、学びの環境づくりに役立てられている。

4月に行われた資格取得奨励生への贈呈式

7月に行われた「はばたけ！留学校友会」懇談会

令和7年度日本大学商学部校友会

総会・懇親会を開催

令和7年度の総会・懇親会が開催され、次世代を担う新役員のお披露目など商学部校友会が新たな気持ちで次の50年へ向かう会となった。

令和7年6月7日（土）、商学部校友会総会・懇親会が、東京・新宿のハイアットリージェンシー東京にて開催された。

総会では、令和6年度の事業・決算報告、及び令和7年度の事業・予算計画、役員改選案について審議が行われ、すべて承認された。議案は、西川豊和副会長、猿谷吉裕副会長の両名が報告を行った。

総会後に行われた懇親会では、山本裕二商学部校友会長が、昨年開催された商学部校友会50周年記念式典に多くの出席をいただいたことへの、謝辞を述べた。また、ソコロワ山下聖美日本大学副学長、商学部の長谷川勉学部長、校友会本部事務局の金澤宏昭事務長からご挨拶をいただいた。芸術学部出身のソコロワ山下副学長は、校友会の日頃のサポートに感謝を述べ、大学と校友会が一体となって学生を支援していきたいと語った。さらに、林真理子日本大学理事長をはじめとする来賓祝電も披露された。

商学部の久保文貴事務局次長から乾杯の挨拶の後、歓談の時間には参加者同士が名刺を交わし、近況を報告し合う姿が見られた。在学生も多数参加し、現役学生・教職員、卒業生の間で、世代を越えた交流が深まった。

会の途中では、商学部校友会の新役員人事として5名が山本会長より紹介され、新たな顔ぶれが壇上に並んだ。会長は、これまで担ってきたメンバーに感謝を伝え、新体制への期待を述べた。

昨年は50周年記念式典が行われたため、2年ぶりの開催となった総会・懇親会。本会は、次世代を担う役員とともに、商学部校友会が新たな気持ちで次の50年に歩みを進める再出発の場となった。

多くの校友が一堂に会し、真剣な議論が交わされた総会の様子

山本裕二商学部校友会長

ソコロワ山下聖美日本大学副学長

長谷川勉商学部長

商学部校友会の新役員人事として5名が壇上に並んだ

令和7年度 商学部校友会事業計画

1. **学部との連携**
   - ① 学部執行部との定期的な意見交換会を実施
     学部長、事務局長及び役教職員と定期的に会合を持ち、相互理解と協力関係を深める
2. **校友との絆**
   - ① 会報の発行
     本年12月に会報を校友に送付
   - ② ホームカミングデー協賛
     令和7年11月2日（日）第30回ホームカミングデーに協賛
   - ③ ホームページの充実・活用
3. **在学生への支援**
   - ① 経済的理由により学業の継続が困難な学生及び成績優秀者を対象として学部と選考の上、奨学金を支給
   - ② 資格取得者への奨励金
     資格取得者に対し、表彰及び奨励金の授与
   - ③ 留学希望者への支援
     「はばたけ!留学校友会」として留学希望者への支援を行う
   - ④ 学生団体との交流
     学生団体との交流を図り、各種支援を行う
   - ⑤ 卒業記念品の贈呈
     卒業生に対して卒業記念品を贈る
4. **その他**
   - ① 学部教職員、校友、在学生との交流会開催

令和6年度 商学部校友会事業報告

4月 1日	商学部新入生開講式 資格取得奨励生への贈呈式及び祝賀会
4月 4日	常任幹事会開催（以後毎月開催）
5月 2日	常任幹事会開催（決算常任幹事会）
6月 6日	常任幹事会（総会に代わる決議）
9月 28日	校友会創立50周年記念式典・祝賀会 50周年記念寄付（5,000,000円）
10月 26日	OBOG訪問イベント後援
11月 3日	第29回ホームカミングデー開催 砧祭実行委員会に協賛金贈呈（600,000円）
11月 16日	第9回歴史散歩開催
11月 22日	校友会奨学金関係寄付（4,000,000円） 資格取得奨励金寄付（3,000,000円） 役教職員と校友会役員の意見交換会
12月 8日	第50回インゼミ大会後援（校友会賞授与）
12月 20日	校友会報第48号発行
1月 20日	令和6年度日本大学商学部校友会奨学生との懇談
1月 22日	研究成果等ポスターコンペティション表彰式 （令和6年度より校友会長賞授与）
1月 23日	商学部役教職員と校友会役員の新年交歓会
2月 8日	常任幹事と若手幹事との意見交換会
3月 25日	商学部卒業生へ記念品贈呈 令和6年度資格等取得奨励生への表彰

昭和14年卒業アルバムをデジタルアーカイブ

商業を学ぶ戦前の日大生の姿を後世へ

昭和14年商経学部商業学科卒業生・酒井毅氏のご子息より、当時の卒業アルバムをご提供いただきました。
戦前の日大生の学生生活がうかがえる貴重な歴史資料としてWeb公開しましたので、ぜひご覧ください。

右記の二次元コードよりアクセス→

もっと詳しく! 昭和14年卒業アルバムのより詳しい記事は 日大商学部校友会　昭和14年卒業アルバム で 検索

躍動の原点 OB・OGインタビュー

日本在住の外国人経営者向けに会計・給与計算のアウトソーシングを行うパーカーズ・ピース株式会社。その代表を務めるのが商業学科出身の押尾忠宏氏だ。海外ビジネスに興味を抱いたきっかけや起業までの道のり、さらには目標を掲げて行動し続ける信念について伺った。

【押尾氏の略歴】
千葉県・我孫子市出身。前回掲載の石田雅一氏とは同じゼミで親友。25歳頃までインディーズバンドのドラムを担当。MBA取得後、上場企業や京都のベンチャー企業で財務・経理実務を経て、2014年に独立開業。

パーカーズ・ピース株式会社
〒600-8413
京都市下京区
大政所町680-1-203
TEL：075-744-1734
URL：https://parkerspiece.co.jp/

夢に向かって、一歩ずつ前へ

海外ビジネスへの道

商業学科 2001年卒業
「パーカーズ・ピース株式会社」代表取締役社長 **押尾 忠宏** 氏

海外への興味を深めた日大商学部時代

私は現在、京都で「パーカーズ・ピース」という会社を経営しています。社名は、大学時代にサマースクールで訪れた、ケンブリッジにある公園の名前に由来します。高校生の頃、経営学者ピーター・ドラッカーの著書を読み、「いつか会社を経営したい」と思ったことが、商学部進学のきっかけでした。英語が得意だったこともあり、サマースクールや国際経済ゼミに参加し、海外への関心を深めていきました。

大学卒業後は経理として働き出しましたが、将来やりたいことを考え直した際、「やはり経営に携わりたい」と思い直し、ロンドン大学でMBAを取得。帰国後は大手企業に就職し、同社がフランスのサッカーチームを所有していたことから、2年間フランスに駐在してチーム経営に携わりました。現地での実務を通して、文化の尊重や対話が大切だと学び、〝人と会い、話すこと〟を今も大切にしています。

ロンドン大学の学生時代
イギリスのある街にて

目標の起業を成し遂げさらなる夢の実現へ

起業を35歳頃と目標を掲げて、37歳で外国人オーナー企業の会計と給与の代行を行う「パーカーズ・ピース」を立ち上げました。フランスでの駐在時、外国人にとって制度や文化、言語の違いが経営の現場で直面する大きな障壁だと感じたことが設立の理由です。

夢を決め、それに向けて一歩一歩進むことを私は大切にしてきました。今も叶えたい夢がたくさんあります。まずはクライアント数を3倍に増やすこと。さらに将来的には、海外で博士号を取り大学教員になること、50代で海外のサッカーチームを買収すること、南アフリカで事業を起こして孤児院に収益を寄付することなど夢は尽きません。これからも一歩ずつ、夢の実現に向けて歩み続けます。

フランス語・英語・モンゴル語に対応
優秀なスタッフたちと働く

もっと詳しく! OB・OGインタビューのより詳しい記事は 日大商学部校友会　OB・OG で 検索

空手少年から税理士という夢へ

資格取得に挑戦している在学生

商学部校友会では資格取得に励む学生を応援するため、毎年「資格取得奨励資金」を贈呈している。今回は、税理士をめざす4年の室山皓奎（むろやまこうき）さんに話を聞いた。

商業学部商業学科4年
室山 皓奎（むろやま こうき）さん

空手で培った根性を資格の世界で生かす

幼稚園から大学1年まで空手一筋に打ち込んできた室山さん。将来を考えた時に「空手だけでは不安だ」と感じて簿記の勉強を始めたという。友人と一緒に3級・2級を独学で取得し、「せっかくなら最後までやり切ろう」と税理士を志した。藤井誠ゼミでは税務会計をわかりやすく説く先生の指導で、税の奥深さと社会的意義を実感し、さらに目標への思いを強くした。

税理士試験は全5科目制で、室山さんはすでに2科目に合格。直前期には一日14時間机に向かうなど、空手で培った根性を勉強に注いでいる。集中力を保つためスマホのアプリは削除し、「誘惑に勝つには仕組みを変えるしかない」と勉強のコツを語る。ひとりでの長時間勉強が心身の不調を招いた時期もあったが、現在は法学部の研究室にも参加し、質問や相談ができる場所を作ったことで、落ち着いて勉強に取り組めるようになった。

「人とのつながり」が力になる

室山さんが何より大切にしているのは「人との縁」。どんな場所・誰にでも挨拶を欠かさないことが人脈を広げ、これまで多くのチャンスを生んだという。現在は外資系税理士法人に内定し、「色々な人の支えがないとここまで来られなかった」と感謝を口にする。また、資格取得奨励金贈呈式・祝賀会では税理士の先輩方と知り合い、考え方や人生観に触れたことで、自身のビジョンをより明確にすることができたという。

後輩には「大学4年間の過ごし方が、その先の人生を変える。せっかく商学部に入ったのだから専門性のある勉強に取り組んで、未来の自分に目を向けてほしい」と語る室山さん。その言葉に刺激を受けた後輩たちは、簿記を勉強しているそう。これからも室山さんは人とのつながりの中で刺激を受け、そして与えながら、税理士という夢に邁進していく。

OBOG訪問イベント キャリアデザイン講座に協力

在学生の就職活動を応援

商学部卒業生が語る就職活動の経験

商学部との共催により、商学部OBOG訪問イベントが7月26日（土）に開催された。在学生とOBOGが対話する機会を提供し、就職活動に役立ててもらうことを目的としている。開会式では遠藤幸一就職指導委員長と、山本裕二商学部校友会長が挨拶を行った。

今年は1～4年生までの30名を超える在学生と、社会人2～8年目のOBOG7名が参加。OBOGは就職活動や就職後の経験を語り、学生たちは熱心に耳を傾けて、積極的に質問を投げかけていた。

就職活動について在学生と語り合う卒業生

OGの嶌千尋さん（令和4年度経営学科卒）は、「在学生の率直な疑問や考えに触れ、入社を決めた当時の気持ちや今の働き方を振り返る良い機会になった。自分も初心を忘れず成長していきたい」と話した。

また、11月21日（金）・28日（金）の2日間「キャリアデザイン特別講座」にて、校友の塩野忠氏（昭和59年度商業学科卒）と小林聡太郎氏（平成3年度経営学科卒）の2名が講義を行った。100名を超える学生に向け、自身の仕事や経験について語った。

OBOG訪問イベントは、座談会形式のリラックスした雰囲気の中で行われた

江戸時代のお金とは農民の暮らしを考える

令和7年11月2日（日）、日本大学商学部ホームカミングデーが砧キャンパスにて開催された。今回は記念すべき30回目の節目となる。

商学部講堂で行われた第一部の講演会では、冒頭で長谷川勉商学部長が挨拶し、今年度の商学部受験者の動向や、世田谷区と連携した取り組みについて紹介した。

講演には、校友会イベント「歴史散歩」でおなじみの歴史まち歩きガイド・郷土史家の関一成氏が登壇。「江戸時代の税金あれこれ～教科書では教えない年貢の話～」と題し、大河ドラマで注目の集まる〝江戸時代〟を舞台に、商学部らしい〝お金〟にまつわるテーマで講演が行われた。関氏は江戸時代の村の名主の記録をもとに、農民が年貢を米だけでなくお金でも納めていたことや、そこから発生した殺傷事件について解説。参加者は、当時の人々の人生や暮らしを思い浮かべながら、お金をめぐる江戸時代のサスペンスともいえる内容に興味深く聴き入っていた。

講演会が行われた講堂には多くの校友が集った

挨拶をした長谷川勉商学部長

第一部は関一成氏による江戸時代のお金に関する講演会を実施

挨拶をした山本裕二商学部校友会長

乾杯の発声は久保文貴商学部事務局次長

砧キャンパスで卒業生たちが〝再会〟

第二部は食堂「アゼリア」にて懇親会が開催された。全国各地から200名を超える卒業生が集まり、山本裕二商学部校友会長が参加への感謝と交流を楽しんでほしいと挨拶した。

歓談中には、ジャズ研究会に所属する在学生が演奏を披露し、会場を楽しませた。卒業生は久々の再会を喜び合い、近況を語り合ったり写真撮影をしたりする姿が多く見られた。ゼミ単位で卓を囲むグループも多く、当時の思い出や教員の話題で尽きることがなかった。

恒例の福引抽選会も開催され、校友からの協賛品や豪華景品に歓声が上がるなど、大いに盛り上がりを見せた。

第二部の懇親会は食堂「アゼリア」にて

もっと詳しく！ **ホームカミングデーのより詳しい記事は** 日大商学部校友会　ホームカミングデー で 検索

母校で校友と再会を喜び合う

ホームカミングデー

第30回となる商学部ホームカミングデーが開催され、江戸時代の“お金”をテーマにした講演会と懇親会が行われた。

砧祭支援金で開催支援 校友も盛り上げに協力

令和7年度砧祭が11月2日（日）・3日（月・祝）に開催された。第54回のテーマは「Bloom」。多くの出会いや笑顔が花開くよう願いが込められた。今年もゼミナールや団体による企画・展示をはじめ、プロアーティストによるライブイベント、地域の方が参加するフリーマーケットなど、多彩な企画で賑わいが見られた。

商学部校友会からは学生支援の一環として、毎年砧祭支援金を贈呈。開祭式では山本裕二会長から馬場拓真砧祭実行委員長に目録が手渡された。

今年度は商学部社会連携センター主催の「日大砧マーケット」が開催。商学部校友会のブースでは、OBOGのお店や書籍を紹介した。校友会幹事の石田雅一氏の家業である日光甚五郎煎餅「石田屋」は安田ゼミとコラボし、ゼミ生が商品を販売するなど、校友と在学生が交流を深める貴重な機会になった。

山本裕二校友会長と馬場拓真砧祭実行委員長

学生主体の学術大会

第51回インゼミ大会「越境 つながる知と行動」の本選を12月7日(日)に開催

インゼミ大会

日々のゼミでの研究成果に基づくプレゼンテーション・討論を披露するインゼミ大会、今年度の本選には、校友会審査員として山藤裕氏（昭和61年度経営学科卒）、下山慶太氏（平成元年度経営学科卒）、石田雅一氏（平成12年度商業学科卒）の3氏が務め、後輩たちの情熱溢れる研究発表を審査した。

NSリーグ最優秀賞は芝村良ゼミ「SBTohana」チーム、UGリーグ最優秀賞は川野克典ゼミ「ゆうほう調査班」チーム、教員審査員賞は岩田貴子ゼミ「noライスnoライフ」チームが受賞された。校友会賞受賞の岩田貴子ゼミ「たまむし」チームには賞状と盾が山本裕二会長より授与された。

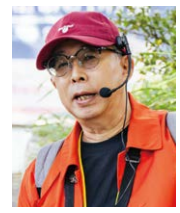
専門家・学部OBの視点でコメント

歴史散歩　第十回

渋沢栄一が暮らした飛鳥山・渋沢史料館から「王子の狐」の舞台 王子を歩く

東京・北区の飛鳥山で渋沢栄一の人生を辿る

校友会主催の第10回「歴史散歩」が11月15日（土）に開催された。江戸の史跡を巡り歩く企画として毎年実施している。今回は江戸歴史文化検定1級を持つ関一成先生と百街道一歩先生を講師に迎え、東京都北区の王子エリアを訪ね歩いた。



講師として案内していただいた関一成先生(左)と百街道一歩先生（右）

気持ちの良い秋晴れの下、JR上中里駅から出発。平塚神社や西ヶ原一里塚などを巡った後、飛鳥山にある渋沢栄一の邸宅跡地・渋沢史料館を訪れた。ここで参加者は自由行動となり、栄一の人生を辿る史料館や国指定重要文化財の建造物などをそれぞれのペースでじっくり見学した。洋風茶室である晩香廬は洗練された意匠と工芸品が特徴で、参加者は繊細なつくりに感心していた。

王子稲荷神社の願掛け石持ち上げにチャレンジ

在学生も楽しんで参加 校友との交流の場に

「王子の狐」という落語噺をはじめ、王子には狐に由来する逸話が多く、2つの稲荷神社を訪問した。王子稲荷神社では、重さのある願掛け石に参加者が挑戦。持ち上がる度に拍手が起こり、在学生から年配の校友まで一緒に楽しむ様子が見られた。装束稲荷神社は、かつて近くにあった、狐が集まる伝承のある装束榎の木を祀っており、今回のゴール地点となった。

今年も在学生が多数参加し、神社検定を持つ女子学生は「東京十社のうち回れていなかった王子神社に行けてよかった。講師の方のお話が勉強になった」と話した。今後も在学生と校友が楽しんで交流できるイベントとして開催していく。

渋沢史料館敷地内にある国指定重要文化財・青淵文庫の前で集合写真

もっと詳しく！ **「歴史散歩」の当日の様子や写真は、** 日大商学部校友会　歴史散歩 で 検索

第20回 校友会ゴルフ大会を開催

初参加の校友幹事・植木裕子氏が優勝

毎年恒例となっている商学部校友会ゴルフ大会が10月4日（土）、武蔵野ゴルフクラブで行われた。何度も開催しているコースで、レイアウトを熟知する参加者が多い中、優勝したのは初参加の植木裕子氏（平成9年度経営学科卒）。表彰式ではゼミの担当教授であった髙橋史安元学部長より表彰され喜びはひとしおであった。当大会は年齢層の幅広いメンバーが一日親睦を深めるのが特徴であり、コースの方からも「こんなに年齢層の幅広いコンペは大変珍しい」とコメントをいただいた。来年も皆で白球を追いたい。